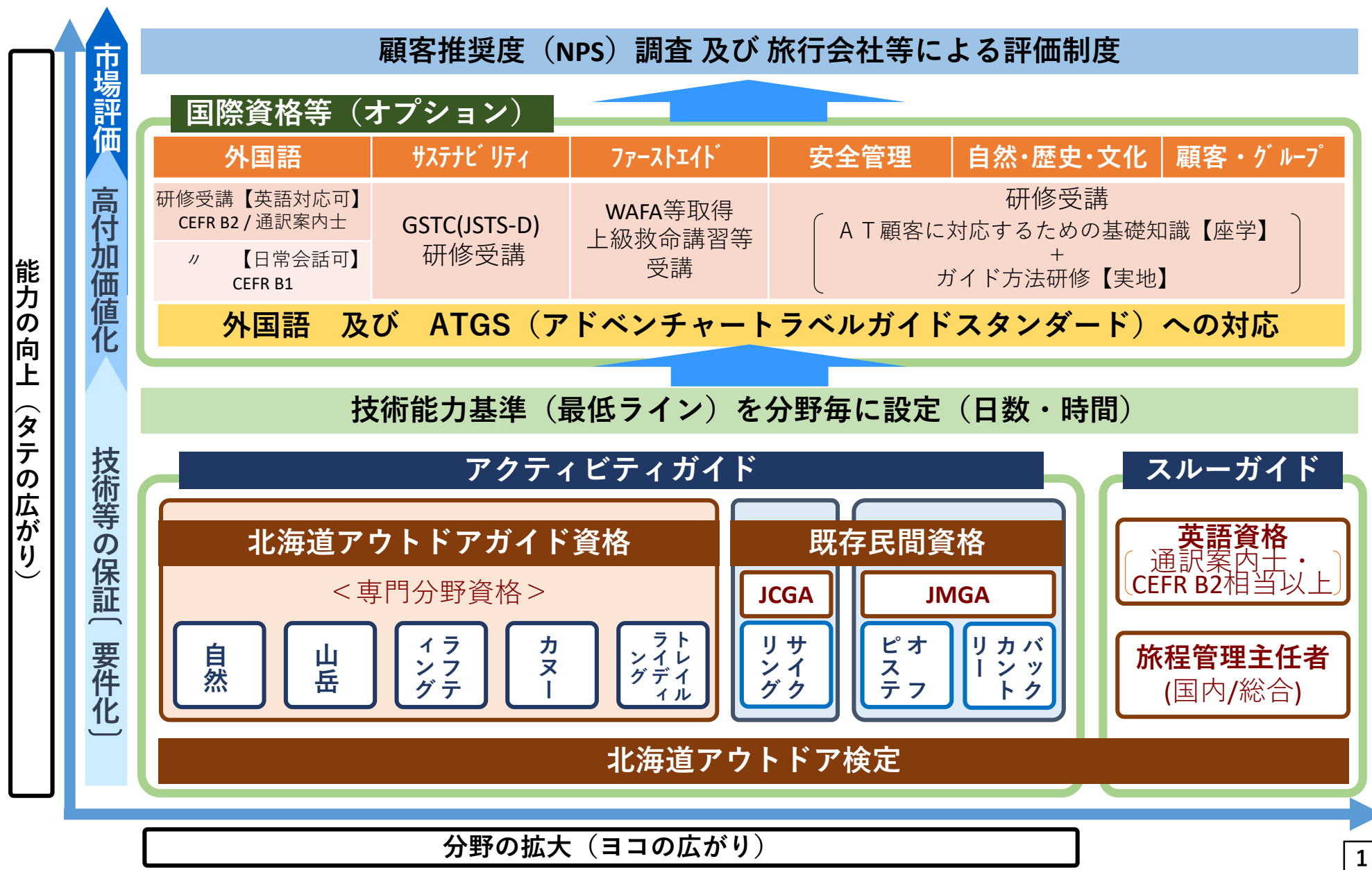


アドベンチャートラベルに対応した
「新しいガイド制度のあり方」
に関する提言（素案）

1 ATに対応した新たなガイド制度の概要（全体像）



WGを踏まえた整理と今後の対応（案）

- ・ 技術能力基準：年数重視× 売上基準の意見あり ⇒ 時間（日数・時間）
- ・ グレードの段階設定（3段階）：段階設定は困難 ⇒ 最低ラインの設定（段階は設けず）
- ・ 市場や旅行会社からの評価への要請 ⇒ 別途、顧客推奨度調査・旅行会社評価導入
- ※ 最終案までに、各専門分野の技術能力基準の確認（各分野の権威・有識者等へのヒアリング）

アクティビティガイド

定義 アドベンチャートラベルについて十分理解し、それぞれのアクティビティに対する高い技術及び専門性を併せ持ち、アドベンチャートラベラーからの要求に対応できるガイド

- 資質**
- ・ 専門分野に関する深い知識
 - ・ アドベンチャートラベルツアーで通用する技術能力
 - ・ ATGS等の各項目に対応したガイド能力
 - ・ 地域の魅力やアクティビティの素晴らしさを提供

- 要件**
- ・ 北海道アウトドアガイド資格 又は 北海道アウトドア検定 + 民間資格
 - ・ 技術能力基準（最低ライン）の充足

<技術能力基準（想定）> ※ 最終的には有識者等への追加ヒアリングで確定

自然	ツアー従事日数 200日以上 (直近2年間)	カヌー	ガイド業務従事時間 100時間以上 (直近2年間)
山岳（夏・冬）		ラフティング	
オフピステ		トレイルライディング	
バックカントリー		サイクリング	

顧客推奨度（NPS）調査 及び 旅行会社等による評価制度

⇨ 推奨 ⇨ 必須

国際資格等（オプション）

外国語	サステナビリティ	ファーストエイド	安全管理	自然・歴史・文化	顧客・グループ
研修受講【英語対応可】 CEFR B2 / 通訳案内士 // 【日常会話可】 CEFR B1	GSTC(JSTS-D) 研修受講	WAFA等取得 上級救命講習等 受講	研修受講 A T 顧客に対応するための基礎知識【座学】 + ガイド方法研修【実地】		

外国語 及び ATGS（アドベンチャートラベルガイドスタンダード）への対応

技術能力基準（最低ライン）を分野毎に設定（日数・時間）

北海道アウトドアガイド資格

< 専門分野資格 >

- 自然
- 山岳
- インフテ
- カヌー
- トレイルランニング

既存民間資格

- JCGA
 - リサイク
 - グク
- JMGA
 - ピオ
 - ステフ
 - リカ
 - バック
 - トク

北海道アウトドア検定

分野の拡大（ヨコの広がり）

市場評価

高付加価値化

技術等の保証

要件化

能力の向上（タテの広がり）

WGを踏まえた整理と今後の対応（案）

- ・ **BC**：ギアは4種類（スキー、テレマークスキー、ボード、スプリットボード）のいずれか
→ むしろフィールド（オフピステ・バックカントリー）を区分すべき ⇒ JMGAとの連携
 - ・ **サイクリング**：JCTA資格に更新制度なし（現時点では知識・技術保証が困難）⇒ JCGAとの連携を先行
 - ・ **SUP及びMTB**：インストラクター資格のみ（ガイド資格なし） ⇒ 引き続き連携可能性を検討
 - ・ **道OD検定取得に抵抗感（時間・費用）** ⇒ 取得への理解促進を継続（最低限の知識・ATGS対応）
 - ・ **連携する民間資格の更新が3年ごと** ⇒ 有効期間は3年（最大）
- ※ 最終案までに、各専門分野の技術能力基準の確認（各分野の権威・有識者等へのヒアリング）

<連携可能性の検討結果>

分野・専門領域	資格認定団体	対応する資格	対応
オフピステ（サイドカントリー）	日本山岳ガイド協会 （JMGA）	スキーガイドステージⅠ	連携可能 （分野拡大）
バックカントリー		スキーガイドステージⅡ	
サイクリング（ロード）	日本サイクリングガイド協会 （JCGA）	サイクリングガイド （レギュラー以上）	
	日本サイクリングツーリズム推進協会 （JCTA）	×ガイド資格あるものの 更新制度なし	検討継続
MTB（オフロード）	海外（加・米）団体等	×ガイド資格なし	
スタンドアップパドルボード（SUP）	日本SUP指導者協会（SIJ）	（インストラクターのみ）	

（選定要件）

- ① ガイド資格の存在（≠インストラクター資格）
～ ガイドの資質の判断が可能（技術等の客観的基準） / ガイドの職業倫理及び当該分野の専門知識を保有
- ② 資格の更新制度や、定期的な講習を開催し、一定レベルの知識や技術を保証

3 アクティビティガイドの分野拡大

	オフピステガイド	バックカントリーガイド	サイクリングガイド
定義	森林限界を越えない範囲内で、且つ、スキー場に隣接し、スキーリフトやロープウェイの終点から登高2時間以内の地点より滑降し、ゲレンデまたは一般交通路に容易に戻ることができるエリアにおいて、スキー・スノーボード等のガイドをする者	ピッケル、アイゼン、ロープなどを使用せず登高できる雪山で、ゲレンデや一般交通路に隣接しないエリアにおいて、スキー・スノーボード等のガイドをする者	日本独特の交通事情を把握し、スポーツ自転車の正しい扱い方を体得しているサイクリングのガイドをする者
要件	<ul style="list-style-type: none"> 北海道アウトドア検定（有効期限内（3年）、道ODガイド資格の保有者は免除） 		
	<ul style="list-style-type: none"> 日本山岳ガイド協会 スキーステージⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> 日本山岳ガイド協会 スキーステージⅡ 	<ul style="list-style-type: none"> サイクリングガイド 階級レギュラー以上 ※
確認方法	ガイド資格認定証 （試験合格だけでなく、正会員団体に入会し、各協会へ入会手続きを取った者）		認定証
有効期間	通知書発行から3年		3年

※ 顧客を牽引し、一人前のガイドとしてツアーを催行できる水準を採用
 （レギュラー／リーダー／エリート／マスター）

WGを踏まえた整理と今後の対応（案）

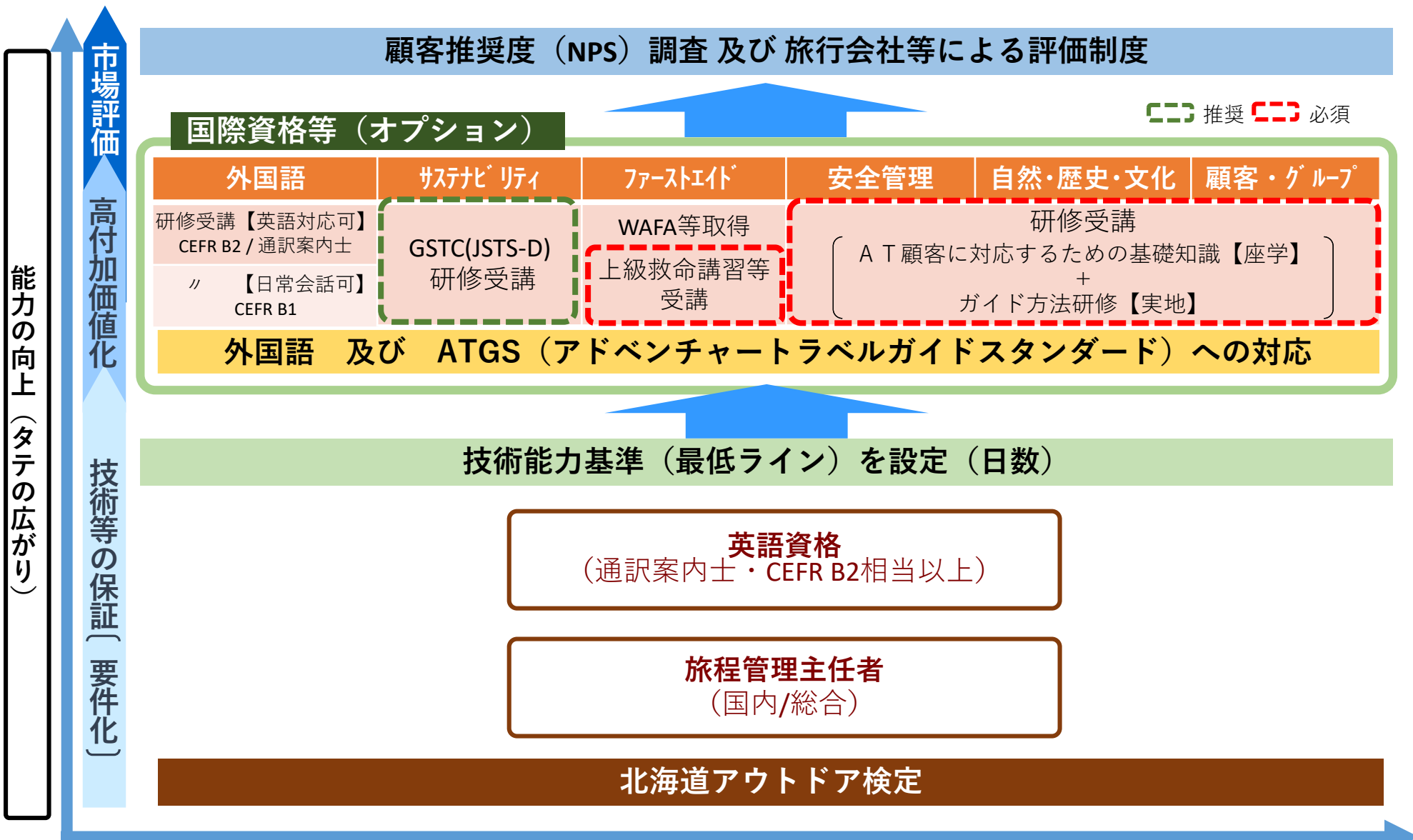
- ・道OD検定取得に抵抗感（時間・費用）⇒ 引続き道OD検定取得を要請（最低限の知識・ATGS対応）
- ・技術能力基準・有効期間：アクティビティガイドの検討を参考 ⇒ 時間（日数）・有効期間3年
- ※ 最終案までに、①各専門分野の技術能力基準（各分野の権威・有識者等へのヒアリング）及び②TOEIC Listening & Readingスコア（旧来のマーキング方式テスト）のみ保有者の取扱い確認

スルーガイド

定義	アドベンチャートラベルについての十分な理解と北海道（地域）に関する多様な情報を持ち、自身もツアーに参加しつつ、顧客管理を担い、ツアー参加者とアクティビティガイドを含めた地域関係者及び旅行会社等との橋渡しを行うコーディネーター						
資質	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道に関する幅広い知識 ・柔軟な行程管理を行うための技術 ・英語圏の参加者への通訳技術 ・アクティビティガイドとの関係構築及び活動をサポートする知識・技術 						
要件	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道アウトドア検定合格（有効期限内（3年）、道ODガイド資格の保有者は免除） ・旅程管理主任者資格（国内／総合） ・全国（北海道）通訳案内士またはCEFR B2相当以上（※別表参照）の英語資格 ・安全管理や自然・歴史・文化、顧客グループ管理に関する講習受講 ・技術能力基準（最低ライン）の充足 <p><技術能力基準（想定）> ※ 最終的には有識者等への追加ヒアリングで確定</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">添乗員</td> <td style="width: 25%;">ツアー従事日数 200日以上（直近2年間）</td> <td style="width: 25%;">通訳案内士 観光協会等が 1 人</td> <td style="width: 25%;">ガイド業務従事日数 180日以上（直近2年間）</td> </tr> </table>			添乗員	ツアー従事日数 200日以上（直近2年間）	通訳案内士 観光協会等が 1 人	ガイド業務従事日数 180日以上（直近2年間）
添乗員	ツアー従事日数 200日以上（直近2年間）	通訳案内士 観光協会等が 1 人	ガイド業務従事日数 180日以上（直近2年間）				

有効期間

3年



WGを踏まえた整理と今後の対応（案）

- 実地研修＋試験を検討も試験作成や採点の担い手等が課題。また、同一研修でアクティビティガイドとスルーガイドの両方の対応をすることは困難との指摘。⇒ 次の研修の受講をもって外国語に係るバッジ付与
 - ・ 既存の英語能力資格・試験を活用してガイドの英語レベルを区分した上で、研修を実施
 - ・ アクティビティガイドを対象とした専門的な英単語や緊急時対応等を身につける研修とする。
 - ・ 「英語対応可能」レベル（通訳等可能）と「日常会話可能」レベル（簡易な応答可能）の2区分を設定
- ※ 最終案までに、TOEIC Listening & Reading（従来の990点満点）のみ取得者の取扱いを確認

各資格・検定試験とCEFRとの対照表（文部科学省／平成30年3月公表資料より）

CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 200 (230) C2 Proficiency			9.0 8.5				
C1	199 180 (190) C1 Advanced	3299 2600 (3299) 各級CEFR 算出範囲	1400 1350 (1400) 各試験CEFR 算出範囲	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
B2	179 160 (170) B2 First for Schools	2599 2300 (2599) 準1級	1349 1190 (1280) CBT	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
B1	159 140 (150) B1 Preliminary for Schools	2299 1950 (2299) 2級	1189 960 (1080) CBT	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
A2	139 120 (120) A2 Key for Schools	1949 1700 (1949) 準2級	959 690 (840) Core Basic Advanced		224 135	415 235		1145 625
A1	119 100 (100) 各試験CEFR 算出範囲	1699 1400 (1699) 3級	689 270 (270)					620 320

CEFR: Common European Framework of Reference for Languages（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）

欧州評議会で開発された、外国語の学習者の習得状況を示す際に用いられる指標。その言語を使って「具体的に何が出来るか」という形で言語力を6段階で表す。

英語対応可能レベル（B2以上）

⇒スルーガイドに求めるレベル【要件】
（研修の受講は可とする）

日常会話可能レベル（B1）

⇒アクティビティガイドに求める
レベル（研修受講を推奨）

※TOEIC L&R/S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する

WGを踏まえた整理と今後の対応（案）

- ATGSのコアコンピタンスのうち、「サステナビリティ」への対応できる研修として、当初、GSTCの内容を抽出した研修を想定も、ライセンスの問題があることが判明
 - ⇒ 次の研修の受講をもってサステナビリティに関するバッジを付与することといたしたい。
 - ・ GSTCをベースに作成された日本版「持続可能な観光ガイドライン」（JSTS-D）をベースに GSTCトレーナーらにより制作されたテキストによる座学研修を実施
 - ・ 併せて、Leave No Trace※のプログラムを取り込んだ実地研修を受講
 - ※ 本件について、了承が得られれば、答申後11月頃に研修（トライアル）を実施したい。

「北海道サステナブルツーリズム トレーニングプログラム」（仮称）

※ 米国発祥の、環境に与えるインパクトを最小限にして、アウトドアを楽しむための環境倫理プログラム

目的	ATGSにおいて重要性が高いサステナビリティ（持続可能性）基準への理解度を深める	
研修内容	日本版「持続可能な観光ガイドライン」（JSTS-D）をメイン教材として、GSTC公認トレーナーらにより制作されたテキスト（ガイドブック）による座学研修及びフィールドワーク	
講師	GSTC公認トレーナー 及び Leave No Traceトレーナー／マスターエディター	
研修期間	2日間（1日目：座学 + 2日目：フィールドワーク）	
プログラム	< 1日目：座学 持続可能な観光の国際基準の考え方 > ①持続可能なマネジメント ②社会経済のサステナビリティ ③文化的なサステナビリティ ④環境のサステナビリティ	< 2日目：フィールドワーク > ・国際基準4つの重点分野が当該地域で実践されているかどうか、実例を見ながら現地でトレーニングを実施 ⇒ Leave No Trace※のワークショッププログラム
効力	研修に参加したことを示す「修了証」を発行 ※Leave No Trace と要調整	
有効期間	基本3年間（Leave No Trace自体の有効期限は1年間だが、JSTS-Dの座学と組み合わせた本プログラムは3年間有効としたい。）	

WGを踏まえた整理と今後の対応（案）

- ATGSの「ファーストエイド」に対応する既存資格については、WMAのWAFAを中心に検討も、アクティビティ分野によって求められるファーストエイドのレベルが異なるとの指摘あり
⇒ 下表のとおり分野毎に推奨する資格をガイドに提示することとしたい。
- アクティビティガイドはもとより、スルーガイドもアクティビティガイドへの理解促進等のため、北海道アウトドア検定の合格認定（＝上級救命講習受講要）を必須としたい。
- WMTCやSOLO（註）もWMSから認定されており、同様に推奨対象とすべきとの指摘あり
※ 最終案までに、WMTCやSOLOの取扱い確認（WMAとの整理）

対象分野		Wilderness Medical Associates Japan ※			上級救命講習等	備 考	
		WFR	WAFA	WFA			
アクティビティガイド	道アウトドアガイド	自然		◎	○		
		山岳（夏山）		◎		○	
		山岳（冬山）		◎		○	
		カヌー・カヤック ※河川・湖沼		◎		○	
		ラフティング		◎		○	
		トレイルライディング（乗馬）		◎		○	
	スキー（オフピステ） ※JMGA		◎		○		
	スキー（バックカントリー） ※JMGA	◎			○		
	サイクリング（ロード） ※JCGA		◎		○	独自の救急法講習あり	
スルーガイド			◎		○		

◎推奨レベル、○必須レベル

（註） Wilderness Medicine Training Center(WMTC) 及び Stonehearth Open Learning Opportunities(SOLO) Japanも同様に野外救急法に関する国際団体である Wilderness Medical Society(WMS)に認定されていることから、推奨対象に加えることとしたい。

WGを踏まえた整理と今後の対応（案）

- ATGSの「安全管理/自然・歴史・文化/顧客・グループ」に応じた実査（実地研修+試験）を検討
⇒ トライアル結果を踏まえ、次の研修（座学+実地）の受講をもってバッジ付与したい。
- スルーガイドについては、本研修の受講を必須としたい。
 - ※ 最終案までに、再度トライアルを実施し、実効性・再現性を確認
 - ※ また、必要に応じてATTAや関係者との調整を実施

「北海道ATガイド フィールドトレーニング」（仮称）

目的	「安全管理／自然・歴史・文化／顧客・グループ」（ATGSコア・コンピタンス）への理解を深め、ATツアー催行に当たっての実践的な知識・技術等を体得	
研修内容	ISO・ATGSやATTA制作のオンライン動画等を活用・参考とし、GSTC公認トレーナーらにより制作されたテキストを作成し、2日間（1日目：座学 + 2日目：フィールドワーク）の研修を実施	
場所	野幌、釧路湿原（自然分野で実績あり）又は 川湯硫黄山周辺（ビジターセンター等施設あり、自然環境へのアクセス）	
講師	ATTA制作のオンライン動画および北海道マスターガイド、ATTAアンバサダー等 また、フィールドワークでは参加ガイドによる相互チェックを実施	
プログラム	< 1日目：座学 ATツアー催行における基礎知識およびATGSのコア・コンピタンスへの理解 > ① ATツアー催行における基礎知識や役割分担 ② ATTA制作動画を活用し、コア・コンピタンスを学ぶ ③ 安全管理・救急法に関する座学と実習（ケースディ含む） ④ 翌日のフィールドワークの基礎知識を学ぶ	< 2日目：フィールドワーク > ・ ATツアーにおけるガイドを実践できるかどうか、実例を見ながらフィールドトレーニングを実施 ・ チェックシートを活用して相互にガイディングをチェックし合い、終了後にフィードバックを実施
効力	研修に参加したことを示す「修了証」を発行 ※ATTAやその関係者と要調整	
有効期間	基本3年間	

WGを踏まえた整理と今後の対応（案）

- ・ 市場や旅行会社からの評価への要請 ⇒ 別途、顧客推奨度調査・旅行会社評価導入 **【再掲】**
- ※ その他提言等について、可能な限り最終案に向けて確認

WG等からの意見・その他の論点

北海道に対する期待（提言）

- ・ 顧客からの評価制度が必要
- ・ 旅行会社等からの表彰制度のようなものが必要
- ・ ガイドジャンボリ（研修会・技能体験会）開催が必要
- ・ ガイドにスポンサーが付きやすい工夫の実施
- ・ 国内外のマーケットへのPR（資格・AT自体）
- ・ ガイド制度の環境教育への寄与
- ・ ガイド資格保持者の公共施設入場料無償化
- ・ 稼げるガイドの道筋をつけて欲しい
- ・ 道ODガイド検定受験のメリット
- ・ 各種資格取得に対する補助
- ・ 新しいガイド制度の円滑な試行・運用開始

- ・ 顧客推奨度調査
- ・ 旅行会社からの評価制度
- ・ ATガイドのネットワーク化(会員組織化等)
- ・ ガイド間の情報共有促進（スポンサー獲得ノウハウ等）
- ・ インバウンド回復に向けた北海道ブランドの発信
- ・ 観光振興機構等と連携した効果的なプロモーション
- ・ DXの活用（ATポータルサイト開設・オープンバツ活用）
- ・ 観光部局と環境・文化・教育担当部局との連携（道立博物館・学芸員等との連携）
- ・ 送客に向けた施策
- ・ 制度趣旨の周知・理解促進
- ・ 観光振興機構等と連携した各種支援
- ・ AT部会の継続的な目利き（民間組織による運営含む）
- ・ 速やかな要綱等の整備（指導・降格・取消制度含む）
- ・ DXの活用（ポータルサイト・オープンバツ活用） **【再掲】**

タテの広がり
への組み込み
(市場評価)

7 中期的な展開（案）

区分	令和4年度 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)
ガイド 新制度	審議会答申（9月） 道案パブコメ（10月） 要綱等整備（～3月）	試行開始（4月～） （道直営）	試行制度運用	試行制度検証	制度（本格）運用
人材育成	各種研修等	各種研修等 （内容適宜見直し）	各種研修等 （内容適宜見直し）	各種研修等 （内容適宜見直し）	各種研修等 （内容適宜見直し）
誘客・ 送客	プロモーション ふるさと納税	ATWS（9月） 同検証（～11月） プロモーション等	プロモーション等	プロモーション等	プロモーション等
分野の 目利き	AT部会（1回程度）	AT部会（1回程度）	AT部会（1回程度）	AT部会（1回程度）	AT部会（1回程度）
組織体制	組織体制検討・調整	会員組織設立 民間運営検討	会員間の情報共有 民間運営への移行？	会員間の情報共有 民間運営	会員間の情報共有 民間運営
道OD 計画		中間年(指標見直し)		計画見直し	